

# 平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	北区
学 校 名	大阪市立滝川小学校
学校長名	民辻 善昭

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）
  - ・主として「知識」に関する問題（A問題）
  - ・主として「活用」に関する問題（B問題）
- (2) 質問紙調査
  - ・児童に対する調査
  - ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・滝川小学校では、第6学年 39名

## 平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

【国語】 A問題・B問題ともに今年度も正答率は全国平均を上回った。しかし、A問題で「読むこと」の領域で全国平均より正答率が若干下回った。B問題は各領域で高い数値を示した。  
 【算数】 A問題・B問題ともに今年度も正答率は全国平均を上回った。各領域の結果では、A問題「量と測定」「数量関係」において全国平均とほぼ同率であったが、A・B問題「図形」の領域では全国平均を10パーセントも大きく上回る数値であった。

## 分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】 全国平均を下回ったA問題「読むこと」の領域があるが、B問題では逆に全国平均を8パーセント近く上回っていた。この結果については、問いに対する答え方などに課題があったように思われるが、相対的に国語の基礎学力は高い水準で定着していると考えられる。特にB問題における結果は、本校のICTを活用した授業研究の取り組みや習熟度別少人数指導での個の課題に応じた学習の成果により、児童が授業の中で自分の考えを様々な手法で表現し、それを学習のなかで高めることができてきていることに関連しているように思われる。

【算数】 A問題・B問題ともに今年度も全国平均を上回っており、算数の基礎的・基本的な知識・技能の定着ができていると判断できる。「学力向上アクションプラン」の一環として取り組む放課後の個別指導や習熟度別少人数授業での協働的な学習の成果であると思われる。今年度は「図形」領域の正答率が非常に高く、この結果についてはICTを活用した授業実践の成果が高いように思われる。

質問紙調査より

本校の児童はボランティア活動など地域行事によく参加しており、児童たち自身もそのことをきちんと意識している。また、学校の授業研究や大阪市の施策のなかで、重点的に自分の考えを相手にしっかり伝える活動に取り組んだ結果、自分たちが授業のなかで意欲的に考えを発表し、学習に取り組んでいる認識があることを確認できた。しかし、本校の児童の傾向として、学校の授業以外でもしっかりと学習に取り組む反面、家庭でのテレビやゲームなどの時間やルールがあまり定着しておらず、就寝時刻が遅い児童が多いように見受けられる。また、国語の学習が好きな児童が多いのも特徴であるが、読書時間の確保が難しい様子も依然としてうかがえる。そのため、各家庭に対し生活習慣の見直しについて啓発していく必要もある。

## 今後の取組

○言語力や論理的思考力の育成… ICT機器を効果的に活用する等して、論理的思考力育成の手立てを授業の中に取り入れるとともに、全ての教育活動において言語活動を活性化させ、総合的な表現力の育成を図る。

○「学力向上アクションプラン」の活用… 習熟度別少人数指導では、自分の考えを意欲的に表現し、それについて話し合い、互いが考えを高めていくような協働的な学習を重点的目標として取り組む。また放課後の個別支援では基礎・基本の定着を目的とした学習を進める。

○授業力の向上… ICT機器の効果的な活用をめざした授業実践を研究の中心と据え、「ユニバーサルデザイン」を意識した授業づくりと学力調査の結果分析を組み合わせることで、本校の課題に対する取り組みを具体化し、教員が学校全体で取り組む姿勢を意識していく。

## 【 全体の概要 】

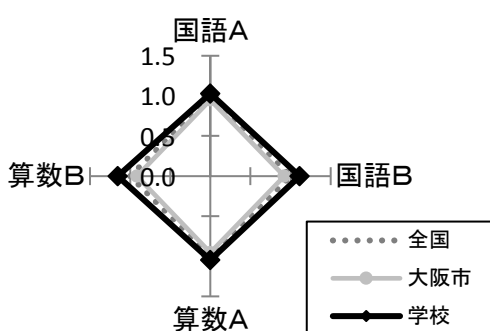
### 平均正答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	77	64	82	53
大阪市	71	53	75	42
全国	74.8	57.5	78.6	45.9

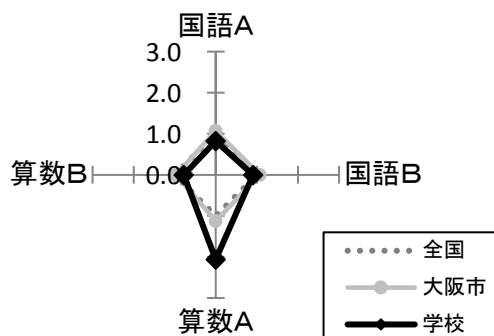
### 平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	2.3	3.9	3.3	5.0
大阪市	3.0	4.6	1.8	6.2
全国	2.8	4.3	1.6	6.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)

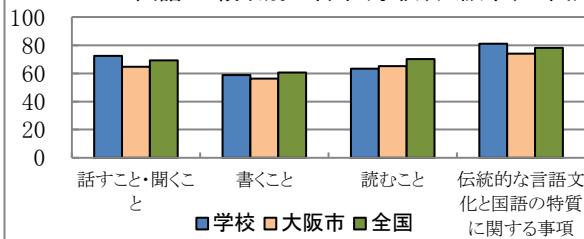


## 【 国語 】

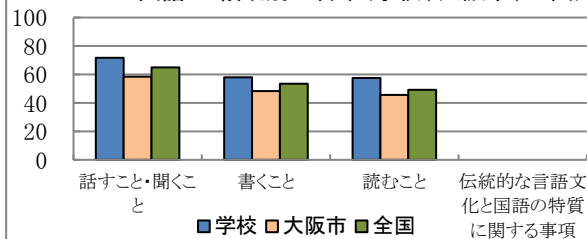
A 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	72.5	64.6	69.2
	書くこと	2	58.8	56.2	60.6
	読むこと	3	63.3	65.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	11	81.1	74.0	78.0

B 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	71.7	58.4	64.9
	書くこと	5	58.0	48.3	53.4
	読むこと	3	57.5	45.5	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	—	—	—	—

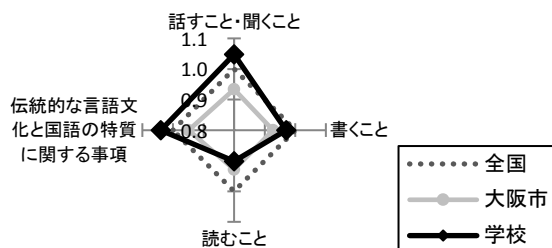
国語A 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



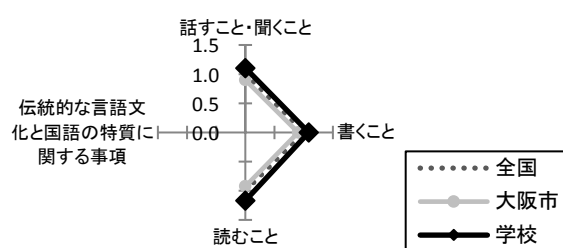
国語B 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語A 領域別正答率(対全国比)



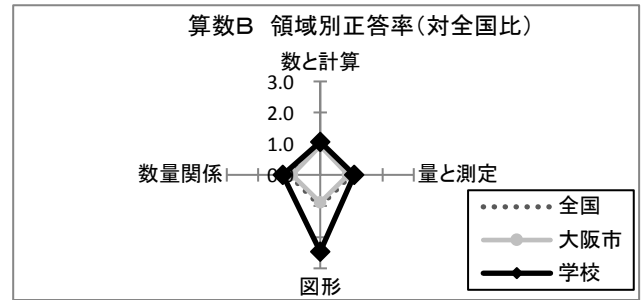
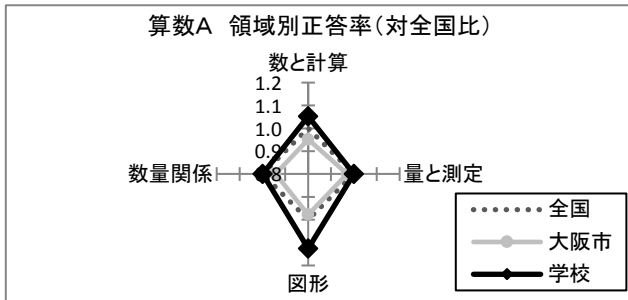
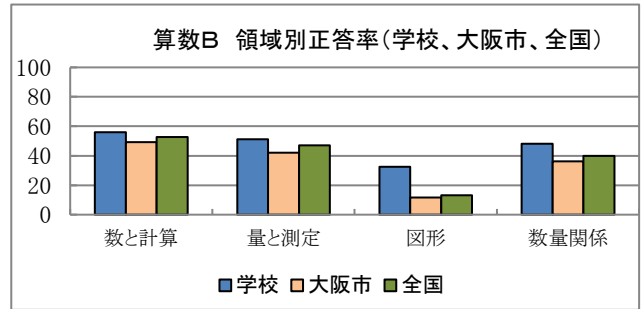
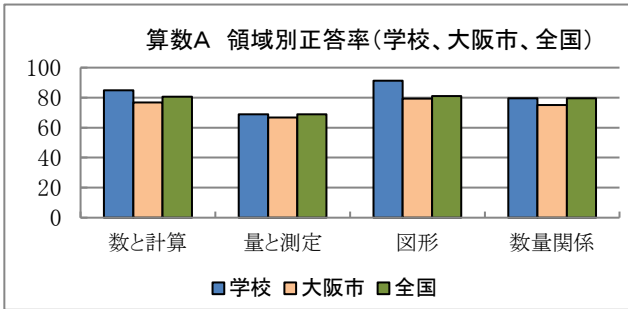
国語B 領域別正答率(対全国比)



# 【 算 数 】

A 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	8	84.8	76.7	80.6
	量と測定	2	68.8	66.8	68.8
	図形	2	91.3	79.3	81.1
	数量関係	5	79.5	75.0	79.6

B 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	5	56.0	49.2	52.8
	量と測定	2	51.3	42.0	47.0
	図形	1	32.5	11.7	13.2
	数量関係	8	48.1	36.1	40.0



# 児童質問紙より

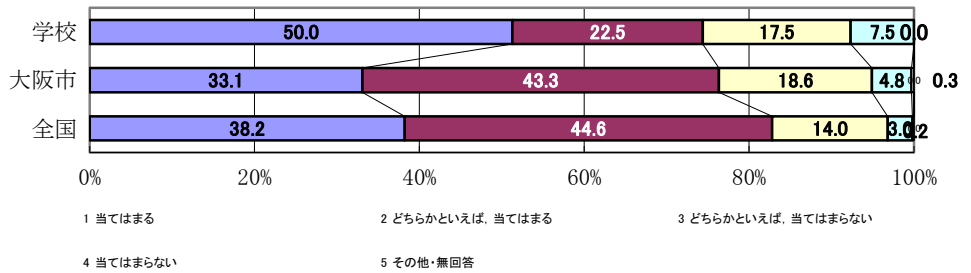
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

質問番号

質問事項

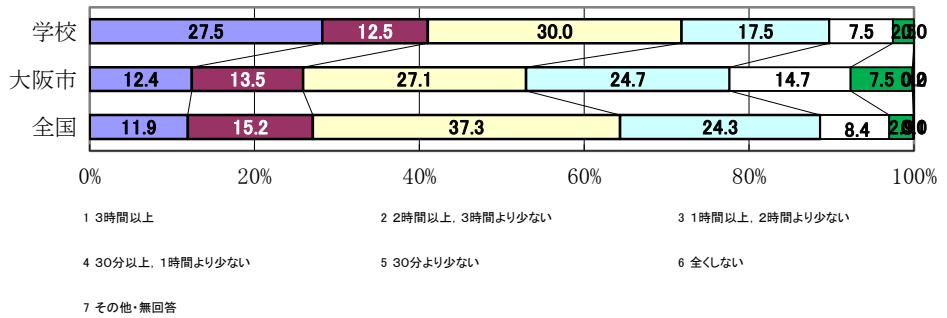
11

授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしていますか



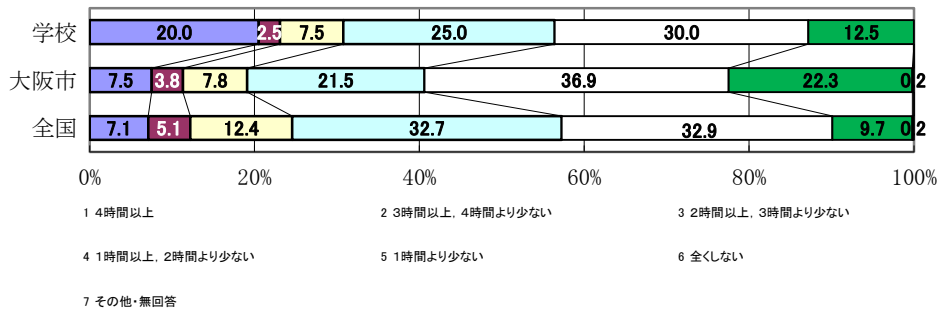
15

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



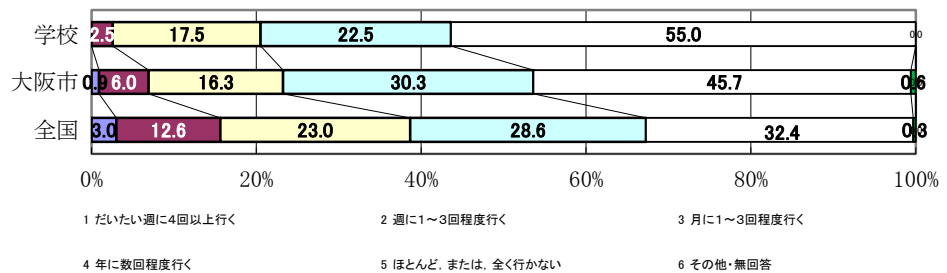
16

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



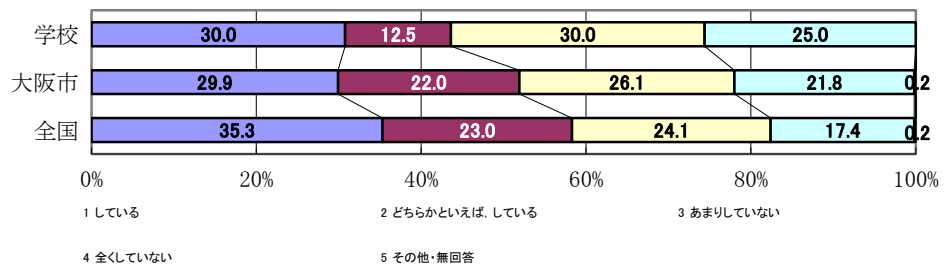
19

昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか



26

テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていますか



# 学校質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

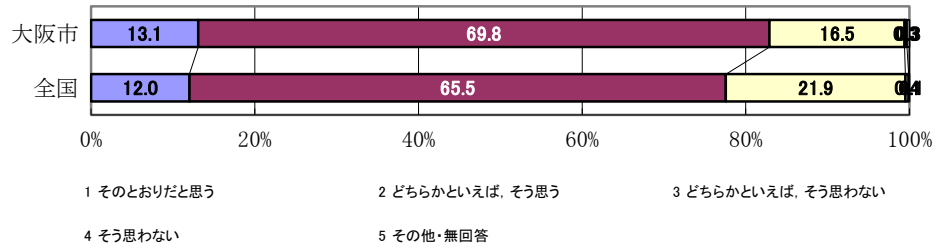
質問番号

質問事項

15

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

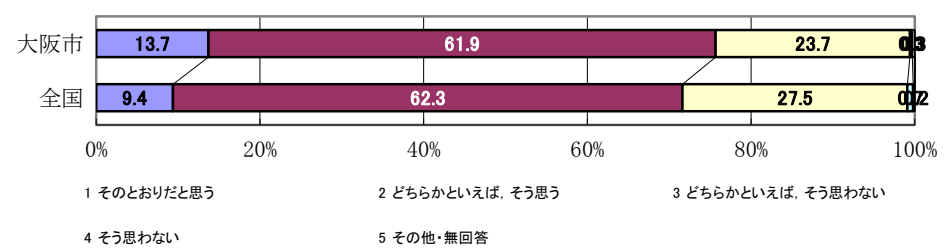
学校 「そのとおりだと思う」を選択



17

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

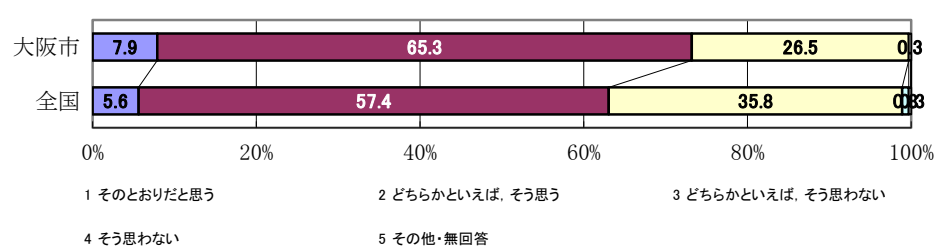
学校 「そのとおりだと思う」を選択



19

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

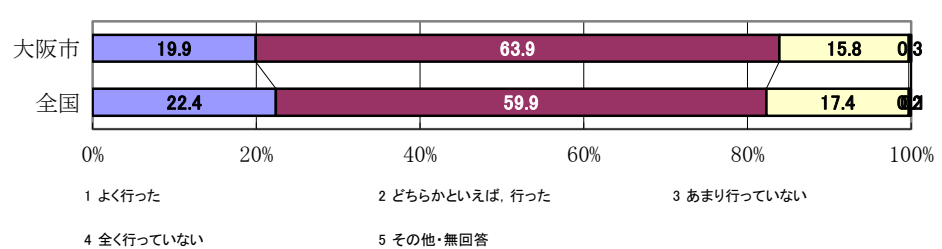
学校 「そのとおりだと思う」を選択



41

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

学校 「よく行った」を選択



43

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、資料を使って発表ができるよう指導しましたか

学校 「よく行った」を選択

